退職者の声

当院に勤務する柔道整復師の多くは、3年間の勤務を経て、新たなるステージに向けて「卒業」していきます。米田病院で柔道整復師としてのキャリアをスタートし、2022年3月に退職した方々の声をご紹介します。

窪井 将志さん
4年間勤務

4年間の研修期間を終え、米田病院で勤務することができて良かったと心から感じております。外来では医師の指導のもとに整復・固定や診察補助をしたり、入院病棟では理学療法士の方々にアドバイスをいただきながらリハビリテーションを行ったりするなど、本当に多くの経験を積むことができました。

また、米田接骨院での勤務や大相撲・マラソン大会の救護活動など、**幅広い分野に携わることが出来るのも米田病院の魅力**の一つだと思います。

私は、脊柱の疲労骨折として知られる腰椎分離症を研究する「分離症研究班」としての活動に力を入れて研修期間を過ごしました。腰椎分離症は成長期のスポーツ選手に好発する傷害で、当院にも多くの患者さんが来院されます。一人でも多くの患者さん・ご家族様の不安を和らげるべく、医師と連携し今後の方針を立て、運動復帰に向け段階的に治療を進めます。私も初診から治療終了までの過程に携わることができ、大変貴重な経験をさせていただきました。

こんな私ですが、業務で失敗し、落ち込むことが稀にありました。悩んで、自信を無くしかけたこともあったような気がします。それを難なく乗り越えることができたのは、紛れもなく同期や先輩・後輩たちによるフォローのおかげです。

明るく賑やかで働きやすい環境は、米田病院の特徴のひとつだと思います。

最後に、米田病院で過ごした4年間をまとめさせて下さい。

「米田病院最高!」

川口 潤さん
3年間勤務

私が米田病院に入職したのは、柔道整復師本来の業務を多く経験できる職場で、将来の進路を考えるためのヒントを求めたからです。というのも、自身のケガがきっかけで医療系の仕事を志しましたが、何か劇的な理由があり柔道整復師の資格を取得したわけではなかったからです。

入職してからは米田伝統の保存療法、特に固定技術に関して練習に明け暮れる日々で、専門職として働く意味を痛感しました。

日々の臨床の中で思い返されるのは「(柔整は)小ドクターじゃないよ」という言葉です。**医師でも理学療法士でもない、我々にしかできない患者との向き合い方**について考えるきっかけとなった言葉です。そして、今では柔道整復師にしかできない医療があると確信しています。

現在、「接骨院の上にビルが建つ」と言われた時代は過ぎ、柔道整復師として身を立てるのが本当に難しい環境にいると感じます。ただし、特別な変化を要請されているのではなく、寧ろ**これまで以上に基礎医学に忠実な再現性の高い技術、言語化できる治療**であると考えます。

米田の教えを胸に、時代が必要とする柔道整復師になれるように今後も精進します。

学生時代から数えると6年間、米田に身を置きました。

私は怠惰な人間ですが、そんな私に対して最後まで目をかけてくれた院長始めとする米田関係者の皆様、多くの学びを与えてくれる患者様、支えてくれた家族の存在。

私を動かす原動力いつも「自分を支えてくれた人たちに少しでも報いたい」これだけです。

一生分の原動力を米田と家族から貰い感謝しかありません。ありがとうございました。

釜﨑 舞さん
3年間勤務

米田病院で勤務した３年間では、主に外来で多くの経験をさせていただきました。
怪我をした患者さんや痛みで生活に困っている患者さんが整形外科へ行き、どのような処置をするのかを学ぶ事によって、今後私が接骨院の現場で判断をする立場になった時に必要な経験をすることができました。
時には主治医の先生や専門医の先生方の診察を見学させていただくことも、ご意見を伺うこともでき、大変多くの疾患について学ぶことができました。
また、米田病院には研究班がありアキレス腱断裂班として３年間活動をさせていただきました。毎週の勉強会や学会発表、多くのアキレス腱断裂患者さんの対応など、他施設では経験ができないような貴重な経験をさせていただくことができました。院長先生をはじめとしたアキレス腱断裂班の先輩方から、**１つの疾患に対して深く学ぶ事、最新の知見を理解する事、それらを患者さんに還元する事の重要性を知ること**ができ、今後の私の財産となりました。
今後も柔道整復師として、米田病院での経験を最大限に活かしていきたいと思います。

幸村 駿さん
3年間勤務

私は学生時代から、手技療法が主の接骨院開業を目標としていました。**将来たくさんの患者さんをみるためにはより広い視野を持つべきと考え、米田病院に入職**しました。資格取得後のスタートに整形外科を選択したことで、実際、接骨院ではみられないような外傷や、様々な疾患を経験することができました。外来では、外傷や急患などの初期対応から治療経過、終了までの対応も経験しましたが、もし他院に就職していたらこれらの経験は得られなかったかもしれないと感じています。柔道整復師としてのスタートダッシュでこのような知見を得られたことは、後に己の良い基盤になると思います。
また、私たちの世代は入院病棟での入院患者さんのリハビリをしっかり経験することができ、恵まれた環境だったと実感しております。病棟では人工関節置換術後や脊椎圧迫骨折の患者さんのリハビリなども経験しました。加えて、起立性低血圧、パーキンソン病によるふらつきなど、入院の主病症とは別の理由で転倒リスクのある患者さんのリハビリに携わることもあり、送り迎えや部屋の環境設定にも注意が必要だと学びましたし、入院生活でストレスがたまったり不安を抱えていたりする患者さんの話を聞くなど、担当患者さんを持つことで“患者さんに寄り添う”ということの意味を少し理解できたような気がします。
米田病院を選択した理由の一つに、多くの研究班活動の存在もありました。私は、OA（変形性膝関節症）班や転倒予防班に携わり、研究班活動では主に転倒予防関連に注力しました。コロナ禍前には転倒予防教室を開催し、地域貢献という形で高齢者へ体操や生活指導を行いました。参加者、スタッフともにとても楽しい雰囲気で行うことができ、こういった医療者主体のイベントは素晴らしく有意義であると実感し、後の人生においても似たような活動を開くことでたくさんの笑顔が生まれたらいいなと考えるきっかけにもなりました。このような経験ができたこと、感謝申し上げます。
以上のように、在職中は本当に多くの事を学ばせていただきました。米田病院で培った経験を忘れず、次の職場である接骨院でも日々努力を続けていこうと思います。